

|           |   |  |
|-----------|---|--|
| 科目名       | 倒産処理法   |  |
| 担当者       | 笹辺 将甫 / SASABE, Masatoshi   |  |
| 科目情報      | 法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次   |  |
| 科目概要      | 授業内容  | <p>近時では、経済活動の飛躍的な発展とあいまって、企業及び個人にとって、「倒産」が身近な現象となっており、経済活動を営む上では、倒産法制を理解する意義は極めて大きいといえます。本講義では、このような倒産法制の概略を初学者にも分かり易く解説していきます。</p> <p>なお、15回という限られた回数では、全ての事項を網羅的に説明することは、時間的な理由から困難です。受講生のみなさんは、予習・復習はもちろんのこと、説明を行わなかった事項につき、配布レジュメや教科書を利用して知識の獲得に努めてください。また、本講義では、基本的に破産法を扱いますが、民法などの他の実体法にも関連・言及します。</p> |
|           | 到達目標  | 倒産手続の基本原則や用語などの基本的事項に関する知識を獲得する。   |
| 授業計画      | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ガイダンス(授業内容・授業方針・成績評価基準)及び倒産手続の概略と位置付け</li> <li>(2) 破産手続の開始①——破産者・破産裁判所・破産手続上の機関(51-87頁)</li> <li>(3) 破産手続の開始②——破産手続開始の原因と開始の申立て(88-117頁)</li> <li>(4) 破産財団と自由財産・破産債権・破産債権者(118-178頁)</li> <li>(5) 別除権(179-206頁)</li> <li>(6) 取戻権(207-214頁)</li> <li>(7) 中間テストとその解説</li> <li>(8) 相殺権(215-233頁)</li> <li>(9) 否認権(286-328頁)</li> <li>(10) 破産をめぐる法律関係の処理(234-269、280-285頁)</li> <li>(11) 破産財団の換価と配当・破産手続の終了(329-362頁)</li> <li>(12) 免責と復権(363-384頁)</li> <li>(13) 企業の倒産——裁判外の倒産処理・破産手続・再生手続・更生手続</li> <li>(14) 個人の倒産——裁判外の倒産処理・破産手続・個人再生</li> <li>(15) 倒産犯罪(403-408頁)</li> </ol> |  |
| 自学自習      | 事前学習  | <p>上記の授業計画には、その回の講義で扱う部分の教科書の該当頁を示しています。受講者には、該当頁を予め読んでくることを希望します。</p> <p>また、開講時までには、徳田和幸『プレップ破産法〔第4版〕』(弘文堂、2010年)を読んでおくと本講義の理解が深まります。</p>   |
|           | 事後学習  | Moodle上で実施される小テストを毎回受験して、講義内容を復習しておいて下さい。任意提出のレポートを課す予定です。   |
| 使用教材・参考文献 | <p>【教】加藤哲夫『破産法〔第5版〕』(弘文堂、2009) ISBN:978-4-335-31361-5</p> <p>【参】瀬戸=山本編『倒産判例インテックス〔第2版〕』(商事法務、2010) ISBN:978-4-7857-1805-3</p> <p>※その他の文献は講義中に適宜紹介していく予定です。</p> <p>なお、講義には、Moodle上で配布されるレジュメを各自で印刷して、毎回持参すること。</p>   |  |
| 成績評価方法と基準 | <p>&lt;方法&gt; 小テストの結果(30%)、筆記試験の結果(70%)を総合評価します。</p> <p>&lt;基準&gt; 総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。</p> <p>※詳細については、初回のガイダンス時に説明します。</p>  |  |
| 備考        | <p>◆六法を毎回持参して下さい。◆小テストやレジュメの配布には、Moodleを利用します。</p> <p>◆民事訴訟法Ⅰ、民事執行法Ⅰ・Ⅱを併せて履修することが望ましいです。</p> <p>初回のガイダンスには必ず出席して下さい。重要な点について説明を行います。</p>  |  |